第3回 ESGファイナンス・アワード・ジャパン

環境サステナブル企業部門 特別賞

株式会社
ダイセキ環境ソリューション

ステークホルダーの関心を踏まえ双方向の情報発信

代表取締役社長
山本 浩也氏

―貴社は、「資源循環（サーキュラー・エコノミー）への貢献」、及び「企業規模の観点から限られたリソースを固有の特徴的な取組に戦略的に注力」の観点から、特別賞を受賞されました。受賞理由となった取組みをご紹介いただくとともに、特別賞の受賞についてのコメントをお聞かせください。

ダイセキ環境ソリューションは、『社会的に不要になったり、負の環境影響を与えるものに対し、工夫を凝らし、再び価値をつける新しい仕組み「環境リバリューストラクチャー」』を創造して、様々な環境課題を解決することで資源循環（サーキュラー・エコノミー）に取り組んでいます。当社は2014年に10年後のありたい姿として「VISION 2025」を制定し、次の3つの目標を掲げました。

1. 土壌ビジネスにおけるシェア拡大と市場創造
2. 新規環境ビジネスにおける開拓者の地位確立
3. 価値観を共有し、社員一丸で動ける組織の構築

1の土壌ビジネスでは単に汚染土壌の処理だけでなく、ライフサイクルCO_2排出量の少ない汚染土壌処理や、ブラウンフィールド（土壌汚染等により未利用となっている土地）を浄化して再度市場に投入する用地リサイクルも行っています。また2についてはリサイクル率の高い産業廃棄物処理業、廃石膏ボードリサイクル事業やバイオディーゼル燃料事業を展開し、常に新しい環境問題に挑み続けています。また「地域・社会」へ貢献する活動として震災や豪雨等の災害廃棄物処理対応にも積極的に関わっています。

弊社の企業規模は決して大きくありませんが、限られたリソースをメイン事業に注力することで最大限のアウトプットを得られるよう取り組んでいます。

今回の受賞を励みとして、今後もサーキュラー・エコノミーの実現に向けて貢献していきたいと考えています。

―今年の貴社の環境/サステナビリティ情報開示で注目すべきポイントをお教えください。

売上高や処理量等は5年間のデータを掲載するなど、様々なステークホルダーに当社の状況をより分かりやすく情報をお伝えすることを心掛けました。気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の枠組みに沿ったシナリオ分析では、特定したリスクと機会について4℃及び1.5℃シナリオで想定される状況を分析し、財務影響を算出しました。

脱炭素に関する新しい取組としては、当社で製造しているBDF（バイオディーゼル燃料）の船舶利用に向けて、国内初のShip to Ship方式で供給トライアルを実施しました。今後もBDFの用途を拡大していきたいと考えています。

また昨年に引き続き社員一人一人にスポットを当て、「VISION 2025」の目標3「価値観を共有し、社員一丸で動ける組織の構築」のために各自が主体的に行動していることや考えていることをインタビューとして掲載しました。

―企業規模や業種特性に応じた特定の重要な環境課題等に対し独自性のある取組みを進めている/進めようとしている企業の皆様に、情報開示等についてアドバイスがあればお願いいたします。

自社のミッションやビジョンに基づく取組を様々なステークホルダーにわかりやすく説明することを心掛けています。また個人投資家向けにオンライン会社説明会を実施し、いただいた様々なご質問に回答するなど双方向の情報発信を行っています。

TCFD等の枠組みや評価軸の観点はステークホルダーに求められる観点でもあるので、それらを網羅できるように取組を展開していくことも重要と考えています。